



ボランティア通信

～小学校AT～

席替えからの学び

英語英文学科4年 阿部 良美

目次
白幡小学校 「席替えからの学び」 英語英文学科4年 阿部 良美
「何も知らないくせに」 経済学科4年 萩原 慎
二谷小学校 「子どもたちの力」 自治行政学科4年 横山 裕也
「学校ボランティアに参加して」 経済学科3年 佐藤 康平
神橋小学校 「自覚」 人間科学科4年 内田 朱音
「『全員が楽しめる』の難しさ」 英語英文学科2年 末廣 帆乃佳
「生徒との距離を縮める」 英語英文学科2年 山下 晴菜
大口台小学校 「考える力」 人間科学科3年 小箱 駿太
南神大寺小学校 「今学期の活動を振り返って」 人間科学科4年 橋本 菜
神大寺小学校 「児童と関わること」 法律学科3年 神田 祥佳

白幡小学校でATのボランティア活動を始めてから、早いもので3年目になりました。今年度は、前年度の後期から入らせていただいていた5年生の子どもたちのクラスでお世話になることが決まりました。子どもたちの学年の変化とともに、私自身もまた気持ちを新たに活動させていただいています。今期は、主に2つのことを目標に掲げ、活動しています。1つ目は、「先生方の子どもたちへの言葉かけや接し方をよく観察し、自分の中に取り込むこと」です。2つ目は、「子どもたちの言動に気を配り、少しの変化にも気付くことができるようにすること」です。このような目標のもと、私は日々の活動の中でとてもたくさんのことを学ぶことができていると実感しています。

先日、授業の中で席替えをする機会がありました。子どもたちにとって席替えは、どの席になるか、だれと近くの席になるかという期待感から、学校生活における恒例の一大イベントです。この日も、担任の先生の「今日は席替えをしたいと思います。」の言葉とともに、とても喜んだ姿が見受けられました。子どもたち全員がくじを引き終わり、各自自分がどの席になるかを把握し終え席を移動する際、先生から「席を移動する前に、まず今まで近くにお友達にお礼を言いましょう。」という一言がありました。子どもたちもこの一言から、自分の周りの席に座っていた子に対して互いに「ありがとう。」を言い合っていました。中には、握手をしながらお礼を言い合う子どもたちもいました。その後、席を移動した後も、「よろしくお願いします。」を言い合っていて、とても良い雰囲気での席替えだと感じました。私自身の今までの席替えを振り返ると、席を移動する前に誰かに対し感謝したこと、席を移動した後に誰かに「よろしくお願いします。」と言ったこと、どちらもなかったように思います。何度もある席替えだからこそ、私は今までその意味を考えず、何も考えずに席を替えていたように感じました。これらのことから、私も将来学級経営をするとき、このような温かい雰囲気で席替えをしたいと感じました。そして、そのような小さな言葉かけを大切に、互いに思いやりを持ったクラスにしていきたいと感じました。

私は後期に白幡小学校で教育実習をさせていただく予定です。教育実習生として教壇に立った時、先生方がやっておられるような言葉かけや接し方ができるよう、これからも観察し、自分自身の中に取り込んでいきたいです。また、子どもたちの言動から、成長や変化にも気付いていきたいです。そして、実習生として、今までと違った立場から実際に子どもたちを見て、接することで感じたことを、将来に生かしていきたいです。

何も知らないくせに

経済学科4年 萩原 慎

教師に必要な資質とは何があるだろうか？それは人間性、専門性、識見や明るさなどその人の能力から性格まで、一人一人が重視するものも異なってくると私は考えている。私はこれまで教員に最も必要な資質は、人間性であると考えていました。決して間違っていることではないと思いますが、4年生を迎えてボランティアに取り組む中で、さらに大事なものに巡り合うことができました。

現在、小学校2年生のクラスに入っています。去年は1年生を主に見てきたため、学年の様子などあらかじめ知っている上で取り組むことができています。また、今年から教員免許を所持しているということもあり、責任感や更なる自身の成長のため以前にも増して授業中の声掛けやアドバイスを行うことができています。しかし、ある児童とのふとした会話から自分は本当に教員に向いているのだろうかと考えさせられる出来事が起きました。

それはある日の登校時に児童から言われた「先生は私のこと何も知らないくせに」という一言です。そのことから、私は自分の今までの行ってきただけの勘違いに気づきました。児童生徒理解という言葉のもと一人一人の児童の特徴や行動を観察し、先生からも情報を得てその子の理解に努めてきました。しかし、その私の行ってきただけの児童生徒理解とは、その子の内面ではなく外面であることに気づかされました。つまり、一人一人の内面までも理解していたつもりが自己満足的な指導しかできていなかったということです。その日を境にして、自分自身との葛藤が始まりました。「本当に自分は教員に向いているのか、また違った形で子どもと関わる仕事に向いているのではないのか。」など悩みながら、日々のATに取り組んでいました。私はその悩みを解決するために、ある先生に「先生のどのようなところが教員に向いていると考えて教員を目指したのですか」と質問しました。その先生は「自分が教員に向いているなんて思ったことなんてないよ。」と返し、一瞬私は戸惑ったが、先生は続けて「好きだから教員を続けているんだよ。」と仰いました。この言葉で私の不安や教員を志す上での戸惑いを全て拭うことができ、原点に戻ることができたと考えています。

以上のように、今回ATの活動の中で出会ったこの課題は私に「本当に自分は教員に向いているのか？」という教員を志すにあたり、一番大きな課題を与えてくれました。教員という職業に惹かれ、教員という職業が好きになったからこそ、今まで学習やボランティアを続けてきたのであり、

決してそれは教員になることを最終ゴールと捉えて行ってきたものではないことに気づかされました。今では日々のATの中で課題を見つけてその解決に努めながら自身の成長を目指すことができています。残りの半年間で本当の意味での児童生徒理解をして、一人でも多くの児童と良い信頼関係を築いていきたいと考えています。



子どもたちの力

自治行政学科4年 横山 裕也

学生生活も残り1年となりました。私の学校ボランティアの活動も今年度で最後です。4月には新しい二谷小学校の仲間も増え、今は毎週会うことが楽しみになっています。そして来年の今頃は、自分が教壇に立てるようにと考えながら活動を続けています。

先日、二谷小学校では運動会が行われました。今年もお手伝いをさせていただくことになりました。私にとっては3度目であり、最後の運動会でもあるので、自分ができることを精一杯行おうと思いました。普段の活動では、1年生を中心に教室に入り授業の補助を行っています。その中で、運動会で披露する1・2年生合同のダンスの練習の授業に何度か入りました。初めてそのダンスを見たときは、完璧とは程遠いので少し心配しました。しかし、運動会が近づくにつれ子どもたちのやる気や楽しさを感じたり、息が合うようになり、運動会本番が楽しみになっていきました。本番当日は、簡単な衣装を身にまとい緊張した面影で出番を待っていました。しかし、出番が来ると元気いっぱいにかっこいい姿を見せて、練習の成果を出し切ろうと踊る姿を見て、私自身感動することができました。ダンスが終わった後の子どもたちの表情は充実感に溢れていて、普段の学校生活とはちょっと違った達成感を味わうことができたのではないかと思います。

他の競技も、他の学年も、1人ひとりが精一杯がんばる姿、またそれを応援する姿、大げさかもしれませんが1つ1つに感動を覚えました。また、私は子どもと接することに喜びを感じ、自分自身も元気をもらうことができたと改めて実感しました。今までの自分の大学生活を振り返ってみると、たくさんの楽しい思い出や充実した日々を送ってきました。しかし、失敗した時や中々物事が上手くいかないことも当然ありました。自分の中で処理しきれず、その気持ちをひきずったまま活動に臨んでしまった時もありました。そんな時、元気に明るく積極的に接してくる子どもたちに力をもらったことが多くありました。こう考えると、私の大学生活は子どもたちとともにあったと思いますし、今後の生活もそうでありたいと感じています。

私に与えてくれた力を何倍にも大きくして返していきたいと思います。学校ボランティアの活動でも、来年度実際に教壇に立つことができた時もそういうことを考えて子どもたちのために努めていきたいです。

学校ボランティアに参加して

経済学科3年 佐藤 康平

今年度4月から二谷小学校でアシスタントティーチャーのボランティアでお世話になっています。以前より学校ボランティアには興味があったものの、大学との授業のかねあいで参加時期が遅れてしまいました。しかし、今年から玉川大学通信教育の小学校プログラムを受講する事を決めたことで本格的に小学校教員を目指そうと思ったことがボランティア参加へ踏み切らせました。

私の今年の目標は「真面目に、柔軟に、児童と接する」というものですが、これは私が子どもと接するさいに真面目に接しようとするに対応や表現、話している内容が固いものになってしまい、子どもとのコミュニケーションが上手く取れないことがあったため、できる限り柔軟に対応したいと思って決めた目標でした。

実際に、参加させていただいているクラスは主に1年生から3年生を中心として低学年のクラスで、子供たちと接するには柔軟さが特に求められる年代です。朝、クラスへ向かうと、読書の時間になっているはずなのに席を立ったり、本を持って歩いていたりする子どもが多く、少し騒がしくなっていることがありました。担任の先生がいなくて私は、注意するならどの様に注意するべきか、そもそもアシスタントティーチャーの立場の人間が注意をしても良いのかといった考えに悩まされました。そして、考えた後に私は一度クラス全体に呼びかけて注意をしました。注意後、騒がしさは少し治まったのですが、解消はせず、担任の先生が帰ってきて先生による注意が入り、その日の読書は終了しました。この時、出来る限りわかりやすく、やさしい言葉を選んで対応しようと心がけたのですが、担任の先生の行った注意の適格性、言葉選び、タイミングなどがとても優れているのを思い知り、小学校教師に求められる語彙力、表現力等の高さと、これを毎回臨機応変に行うという大変さの片鱗を味わいました。そして同時に今の自分の目標でもある様に、自分には柔軟さが欠けている事を実感しました。しかし、このような大変さや、自分の未熟さを味わうだけではなく、休み時間等になると児童と話す機会が多く、様々な会話でコミュニケーションを取ることができたのはとても嬉しく思います。児童たちが積極的に話しかけてくれるというのも大きいですが、これからはもっとこちらから積極的にコミュニケーションを取るよう心がけ、より生徒理解を深めるきっかけにしていきたいと思います。

ボランティアに参加してまだ2ヶ月ほどですが、この短い間だけでも今までになかった経験、体験ばかりで自分の中のイメージや概念が大きく変わりました。これからより積極的に参加することで、目標達成は当然のことですが、教師としてのスキルを磨ける様に努力していきたいと思います。



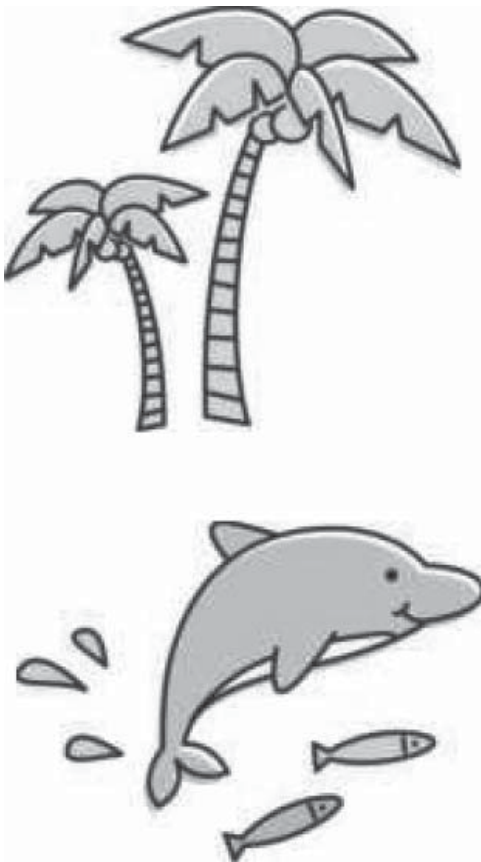
自覚

人間科学科4年 内田 朱音

前期の目標は、「先生としての自覚を持った行動をする。」です。ATをしていると多くの児童から「先生」と呼ばれます。ATとして神橋小学校にいる限り、教師として自覚をもち、日々成長していくための向上心を持って児童を指導していくべきです。まずは、常日頃から周りの先生方の教師行動を観察したり、児童たちと接する機会を多く作ったり、小学校教師になるための心構えや準備をしていきます。

今期は、毎週水曜日の午前中に活動させていただいています。帰省や教育実習のために神橋小学校でATとして活動できたのは数回しかありません。しかし、その短い時間の中で濃い時間を過ごさせていただきました。例えば、朝会の前や休み時間に児童と楽しかったことや最近の出来事について会話をしたり、児童が困っている姿を見かけたら、その場に応じてサポートをしたり、貴重な経験ができました。ATを通じて担当の学級だけでなく、他の学年や学級の児童たちと触れ合えることをすごく嬉しく思います。また、ある一部の児童だけを呼び捨てにするのではなく、男女関係なく一人ひとりの児童と平等に関わるために「○○さん」で統一して名前を呼んだり、主に机間巡視を行い、困っている児童には解決のためのヒントを与えたり、等の支援をしました。更に、多くの児童と交流を持てるように、これからも様々な学級に行って積極的に話しかけたり、中休みに一緒に遊んだりしていきます。教育実習が終わって感じることは、学校ボランティアをやっていてよかった、ということです。中学1年生を担当しましたが、生徒への接し方で困ったことは特にありませんでした。大学2年生の2月から学校ボランティアを始めて、1年半が過ぎました。実際に学校現場を目で見て、耳で聞いて、子供たちと日頃から触れ合う機会があることで、多くの生徒たちとすぐに仲良くなることができました。生徒と接するにあたって心がけていたのは、笑顔でいることです。教育実習をしている中で一番大切にしていました。自分が笑顔でいれば生徒も笑顔になり、気さくに近寄って話しかけてくれるようになります。実習校や神橋小学校でも、担当の指導教諭から「内田先生の明るい雰囲気と笑顔をこれからも大切にね。」とお言葉をいただきました。このことを一生忘れず、子供たちに愛情をもち、子供たちからも尊敬される教員を目指して、これからのボランティア活動や10月の小学校の教育実習に向けて、日々努力していきます。

また、実習中に校長先生から「実習生ではなく教員として、プロとして、生徒たちに指導しなさい。」と講話を受けました。教師としての自覚をもち、生徒に指導するにはまだまだ勉強不足です。これからも学校ボランティアを通じて、様々な経験を心と体で体感し、何事にも意欲を持って挑戦し、学んでいく所存です。



「全員が楽しめる」の難しさ

英語英文学科2年 末廣 帆乃佳

私は今年度から小学校外国語活動のサポーターとして、神橋小学校でお世話になっています。ボランティアを始めるまでは、授業をする側の立場で、小学校に足を踏み入れたことはなかったので、今でも活動日に小学校の門をくぐるときには少し緊張しています。活動の内容は、英語で授業を進めるため、指示や学習の理解に遅れが出ている児童や、積極的になれずにアクティビティに参加できていない児童のサポートを中心に行っています。そこで、私が掲げた前期の目標は、外国語活動の時間を児童全員が楽しく過ごせるように積極的にサポートすることです。

私が小学生だった頃にも英語の授業が月に数回ありました。そのため、初日は自分なりの授業やサポートのイメージを持って教室に入りました。私が受けていた授業は、AETの先生が曜日や色を英語で教えてくれる一方通行の授業だった記憶があったため、授業を楽しむには英語の意味を日本語で理解させてあげることが大切だと考えていました。しかし、神橋小学校で行われている英語の授業は、コミュニケーションが中心のもので、必要とされているサポートの内容も異なっていました。このとき私は、児童に授業を楽しませるためのサポートとはどういうことが悩みました。

私は神橋小学校の先生のアドバイスをもらいつつ、鉛筆を持ったまま動かない児童や、教室内で自由に動きながらインタビューをする活動の時に一人で困った様子の児童に声をかけてサポートをしています。特に、活動の時に一人でいる児童の対応に関してはボランティアの回数を重ねるうちに考え方がかわりました。始めは、とにかくインタビューの相手になってあげることだけを考えて、必要なやり取りが終わると「Thank you Ochan.」と言ってほかの児童のサポートに移っていました。しかし、それだけではサポートしたとは言えないのかなと今は感じています。自分が去った後の児童の様子を見ると、また一人で立ちすくんでいました。その様子を見て、授業を楽しむためのサポートには学習が進むだけで終わってしまうのではなく、次につながるような、児童の積極性や自信をつけてあげる、もしくはそのためのきっかけを与えてあげることが必要だと感じました。今は声をかけるときに一緒にやろうではなく、「〇ちゃんと△ちゃん、一緒にやってみようか。」と声をかけています。これからは先の活動では、児童全員が活動を楽しむにはどのようなサポートが必要なのか、今まで以上に考えて、実現できるように努力していきたいと思います。

生徒との距離を縮める

英語英文学科2年 山下 晴菜

今年の4月から、毎週金曜の午前中に神橋小学校で外国語活動のATとして活動しています。始めてから日が浅く、生徒との接し方や距離感をつかむのに苦労しています。担任の先生方やELTの先生の対応を見てどのように声をかけたらいいのか勉強しています。5月まではELTの先生が授業を行い、私はそれをサポートする形でした。主に授業についていけない生徒がいなか確認しました。学年をまたいで授業を見てきたので、学年ごとに生徒の考え方がまったく違うことがよく見て取れました。それに合わせて先生たちの授業の仕方も変わるのをおもしろいです。

ATをはじめて数か月がたちやと生徒たちとのコミュニケーションがとれるようになってきました。4年生のクラスに入った時に「カードに自分の好きなものを書く」という活動をしました。生徒たちは真剣に自分の好きなものを書いて書いていました。中には何を書いたらよいかかわからないという生徒がいたので「動物だったら何が好き?」と聞いてみたところ、すぐに「レッサーパンダ!」と答えました。生徒たちはたいいてい自分の考えをしっかりと持っているので時々ヒントをだして取り組みを手伝うのが私たちの役割だと気づきました。

またATをしていると普段先生方がどのようなことに気を配って授業を行っているのか見ることができるのでとても勉強になります。小学校の英語教育は文法よりも会話に重点を置いているので、単語の意味や綴りよりもまず音を教えます。そのためELTの先生はイラストを提示する、何度も同じ文を繰り返すなどして言葉の使い方を教えていました。その際ビンゴやかたなどで生徒の興味を持たせ楽しく英語を使う授業をしていました。

小学校での活動は生徒たちの反応を見ることができるのでとても勉強になります。どのような授業が面白いのか、どのようなところがわかりにくいのかなど非常に具体的に知ることができるので貴重な経験だと思います。どんなことに注意し、対応していけばよいのか学んでいきたいです。そのためには生徒との交流を増やし何が難しいのかなど知る必要があると思います。そのためにこれからもっと積極的に生徒への声掛けができるようになります。

考える力

人間科学科3年 小箱 駿太

私は、今年度から大口台小学校でボランティアを始めさせていただきました。主な活動としては、授業のATや個別に支援が必要な児童に対しての補助、その他学校生活の様々な場面でサポートするといった活動を行っています。まだ参加させていただいた回数は少ないのですが、この先4年生や5年生の宿泊研修に帯同するといった機会を設けていただいており、さらに良い経験ができると確信しています。

それらの貴重な経験の中で、まずは自分で考えてみるということを児童に伝える、そして児童だけではなく私自身も今までの教えられる立場から教える立場に変わってきていると感じています。そのため、この先の様々な場面の中で今まで以上に考える力を磨いていかなければならないと思っています。

そのように思ったのは、授業中に児童からわからないひらがなをどう書くのかという質問をされたことが一因でした。そのとき私はどう教えようか悩みましたが、時間もそれほどなかったために、すぐに書いて教えてしまいました。しかしよくよくその場面を振り返ると、それだけでは児童の力にならないということに気づきました。わからないのであればまずは教科書などを使い自分で考え、調べるということをさせるべきでした。ひらがなという非常に簡単なことではありますが、そういった小さなことから自分の力で解決する方法というのを教えていくことが、この先の勉強や生活に結びつくと思うのでしっかりとそれを伝えなければいけません。自分にとっても、質問されたときにどういう方法をとれば、児童にとって一番力になるのかを瞬時に判断していくことが必要になってきます。小学校では指示がなかなか通らなかつたり、児童間の喧嘩が起きたりなど状況が変わったりすることが中学校や高等学校より多く、教師はその瞬時の対応や言葉がけで良い方向、あるいは逆に悪い方向に変えてしまうため、日ごろから子供たちを観察し、どんな選択するのが良いのかを考える力をこの先のボランティアを通して身に付けていかなければならないと感じました。

これからのボランティア活動を通して、受け身になり指示を待つのではなく、自分から何をすべきなのかを考えてこの経験の中から少しでも多くのことを吸収したいと考えています。ただのボランティアのお兄さんというのではなく一人の教師として児童から認識されるように、そして自分が将来、実際に教壇に立つ日に繋がるような活動にしていきたいです。このようなあまり経験できないような機会を設けてくださ

る方々や環境に感謝しつつ、これから今まで以上に多くのことを学んでいきたいです。

今学期の活動を振り返って

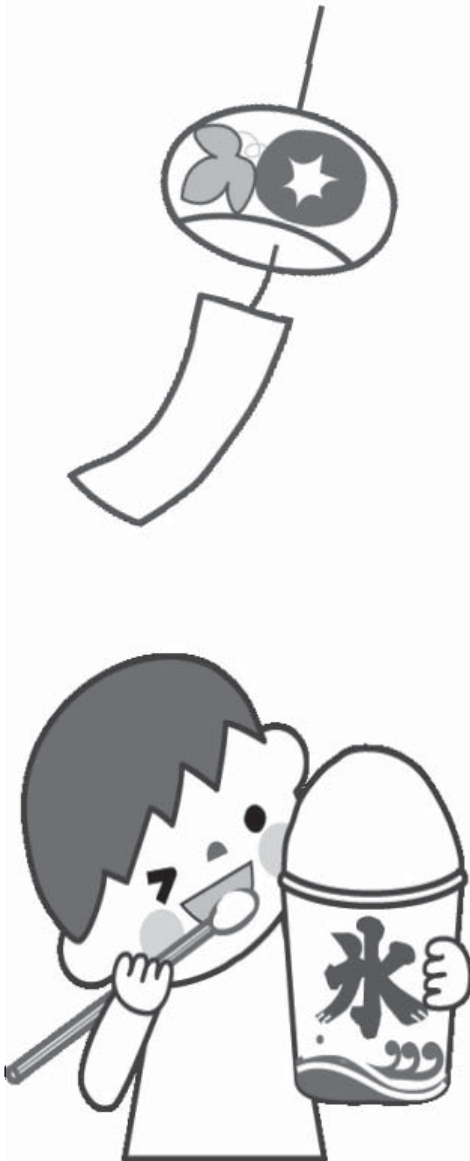
人間科学科4年 橋本 菜

今年度は新たに5年生と、昨年に引き続き個別支援級でお世話になっています。今学期は教育実習があり、1か月間行くことができないこともありましたが、しかし回数は少なくとも南神大寺小で過ごす日はとても大切な学びであると感じています。

個別支援級ではみんなが進級しましたが、新入生はいないのでそんなに変化はないかな、と新年度の教室に行く前は考えていました。しかし、教室に行くときみんなの顔が少し大人になっているのを感じました。中休みが終わるときに、2・3年生の児童と一緒に遊んでいたのが「もう時間だから片付けようね」と言うと、今までならのんびり片づけていたり、片づけを嫌がったりしていたのですが、今回はすぐに片づけに移る姿が見られました。今までも少しずつ変化を感じる場面は多々ありましたが、こんなに急に変わるのには驚きつつ、“進級”というきっかけは絶大なパワーを持っているのだな、と気づきました。

5年生では授業に集中するのが苦手な児童を中心にクラスを見させてもらっています。授業に集中するのが苦手な児童は、クラスのほかの児童の行動や言葉など些細なことが気になってしまい、大声を出したり教室を出て行ってしまったりします。クラスの児童が「これはよくないのでは？」という、私にもわかるような行動や発言をすることもあります。正直「今、何かあった？」「何が原因？」ということで騒いでしまうことの方が多いです。私が彼のことを理解できていないことの表れでもあり、まだまだ未熟なのだと感じさせられることもあります。教室から出て行ってしまった後や興奮した後のフォローの仕方も私は全くわからないのですが、先生方は上手にそっとする時間を作ったり、何気ない会話をしたりして、気持ちを落ち着かせています。私も何度かやってみたのですが、まだまだうまくいきません。そのたびに間合いの取り方や、言葉がけの仕方、それぞれの児童に対する理解など、やはり先生方はスペシャリストだなと感じました。

学校ボランティアをさせていただく期間も残り少なくなりました。今までのように児童から教えてもらうこともたくさんあり、それが私の成長につながっていることは間違いありません。ですから先生方の立ち居振る舞いや言葉かけなどにも今まで以上に注目していきたいと思います。



児童と関わること

法律学科3年 神田 祥佳

私は今年の5月から、神大寺小学校のATとして週に1回小学校教育の現場に携わらせていただいています。まだ活動を始めたばかりでわからないことも多いですが、とても勉強になることばかりで、とてもやりがいのある学校ボランティアです。

これまでの私は、本気で教師になるという決断ができず、これからどうしていけばいいのかわからない状況でした。しかし、真剣に将来を考えていくうえで、今は小学校教諭を目指して、自分なりに日々真剣に取り組んでいます。その中で、介護体験での特別支援学校の実習や、この小学校ATで直接児童と関わる機会が増え、児童の純粋無垢な心に触れることにより、改めて小学校教諭になりたいという思いがより一層強くなりました。

神大寺小学校でのATの活動は、主に個別支援学級のアシスタントをさせていただいています。ATの活動をしていると、児童たちが「先生名前何て言うの?」「先生一緒に遊ぼう」など、私に興味を示してくれたり、わからない問題があると「先生、来て」と、私のような大学生でも頼ってきます。それだけでものすごく嬉しくて、自分の悩みなんで吹き飛んでしまうくらい幸せな気持ちに包まれます。それだけではありません。私がこのATを始めて一番嬉しかったことは、児童が図工の授業で作った折り紙を、私にプレゼントしてくれたことです。児童からこの折り紙をもらった時は、涙が出てしまうくらい私の心に温かい気持ちをもたらしてくれました。この折り紙は、一生忘れられない私の宝物です。この学校ボランティアは、週に1度私が児童たちから元気をもらえる日と言っても過言ではないくらい、日々充実したものとなっています。

しかし、この学校ボランティアを始めるまでには様々な葛藤があり、自分なりに考え悩みました。その中でたくさん

の方が支えて下さったおかげで、今現在こうして小学校ボランティアの活動をさせていただくことができています。感謝してもしきれない思いです。本当にありがとうございました。学校ボランティアにおけるATは、これから小学校教諭になるにあたって、とても重要な経験となり、経験という名の自信を私にもたらししてくれることと思います。ATを始め、児童と直接関わることで本当に良かったです。まだまだ始めたばかりですが、これからも意欲的に取り組み、勉強させていただきたいと思います。



発行日：2015年 7月17日

発行所：神大ユース・サポート・プロジェクト(JYSP)

TEL：045-481-5661 (内線4352)

FAX：045-413-4154

E-mail：jysp-jimukyoku@kanagawa-u.ac.jp

UPL：[http://www.kanagawa-u.ac.jp/](http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp)

[teacher_training_course/jysp](http://www.kanagawa-u.ac.jp/teacher_training_course/jysp)

